

著：坂本 穆彦，北川 昌伸，菅野 純
組織病理カラーアトラス [Web 付録付] 第3版

書評者：泉 美貴(昭和大学教授・医学教育学)

◆第3版を^{しゅったい}出来るとは

今日のような、本が売れない、教科書が売れない時代にあって、『組織病理カラーアトラス』が第3版を出来するに至ったことは、大変な慶賀である。評者自身は15年前に上梓した著書の第2版を最近ようやく出来したばかりであり、これがどれほど凄いことかを実感するとともに、羨望と尊敬の念が交錯するのである。

◆著者は東京医歯大の精鋭3病理医

同書は、名門の東京医歯大の病理学教室を同門とする3名の稀代の病理医によって上梓された。

初版出版の2008年当時、兄弟子の坂本穆彦先生が両者に声を掛け、同書の刊行を試みられたのはまさしく慧眼で、坂本先生は後に日本病理学会の副理事長を務められ、北川昌伸先生は現在同学会の理事長として八面六臂のご活躍である。一方、菅野純先生は日本毒性学会理事長および、国際毒性学連盟(IUTOX)でアジア初の会長(President-Elect)として世界を股に掛けて活動されている。

◆病気の理(病理学)の王道

本書は、総論として、炎症性疾

患、腫瘍性疾患、代謝障害、循環障害および先天異常についてまとめられていることがまず嬉しい。医学における膨大な疾患も実は、わずかの5疾患群に分類でき、実診療においては診断がこの範疇をまたがないことが何より重要であることが自然と理解できる。最近の病理学は分子生物学が隆盛で、診断も遺伝子異常や染色体異常に頼る傾向がある。病理医による形態診断では、HE標本は深く観察せずにすぐに多数の免疫染色に頼る傾向が強い中、病理学の基本を大事にされていることがわかる。疾患の概念や分類は、全てアップデートされている。

医学は歴史的に顕微鏡観察による形態学に端を発し、特定の組織模様を疾患として定義してきた学問である。本書では、各項目の文頭に「疾患概念」が端的に示してある。「病理診断のポイント」は箇条書きでコンパクトに見事にまとめられている。病理像は、1ページに2, 3枚の大きな写真が読者に語りかける。図は全て医学書院のWebサイトから閲覧することができ、パソコンのモニターに

広げて見る図は迫力があり美しさに惚れ惚れする。

◆診る前に読め(見る前に飛べ)

医療系の学生、研修医、若い病理医および忙しい専門医らにとって、病理学を修得することはまるで、「琵琶湖の水を飲むよう」に困難であると感じるかもしれない。しかし、本書であれば1ページごとに完結しているので身構えて時間を作らずとも、パラパラと気軽に読み進められるため、気がついたら、琵琶湖の水も飲み干せると感じさせてくれる。

学修者には、本書を片手にWebサイトの画像を観察して、実習スライドや診断スライドと見比べて繰り返し学んで欲しい。本書により、見えなかった所見が、「見えた!」、「解った!」という、学問の最高の喜びを味わっていたけると期待している。

● B5・頁434 2021年5月
定価：13,200円
(本体12,000円+税10%)
[ISBN978-4-260-04590-2]
医学書院刊